

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 Tel. 0569-26-4888 <http://www.nankichi.gr.jp>



②



③



①

新美南吉生誕祭式典

～109歳の誕生日をお祝いして～

- ①生誕110年へのカウントダウンボードを披露
- ②俳優・間瀬富末子さんによる歌唱
- ③紙製バースデーケーキと皆様から募集した“南吉さん”へのメッセージ・イラスト

七

月三十日(土)から三十一日(日)にかけて、「新美南吉生誕祭」を開催しました。コロナ禍以来、三年ぶりの開催です。両日とも紙芝居や朗読、人形劇、歌など、さまざまな形で南吉作品に親しんでいただきました。ほかに「ガリ版体験」や「ツールペイント教室」、彼岸花の風車を作る体験など、親子で楽しめる行事も開催して、終始賑やかな生誕祭になりました。

特に誕生日当日の七月三十日は、朝から「南吉さん

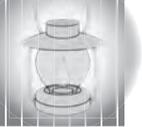
の日」式典を行ない、たくさんの方が参加されました。来年、南吉は生誕一一〇年を迎えます。そこで式典ではカウントダウンボードを披露することに。半田市長、半田市議会議長、南吉童話賞または感想画コンクールの入賞経験のある地元の小學生、坂田詩花さんと石川由宇さんによって白布が降ろされると、「あと365日」の文字が大きく現れました。

また今回の式典には、半田市出身の俳優・間瀬富末子さんをお迎えし、南吉の詩「明日」のオリジナルソングと、ミュージカル「ごんぎつね」の劇中歌「生まれたよ、ありがとうーGoGoのテーマ」を歌っていたいただきました。間瀬さんは小学一年生の時にミュージカル「ごんぎつね」に出演されたことが、舞台俳優への第一歩になったそうです。そんなお話も交えながら、会場いっぱい歌声を響かせてくださいました。

南吉の生誕一一〇年まであと一年。これを弾みに、今後さらに盛り上げていければと思います。

特別展 南吉の昭和17年

私は死ぬけれど私の仕事は死なない



現在、新美南吉記念館では半田市制八十五周年記念特別展「南吉の昭和17年」私は死ぬけれど私の仕事は死なない」を開催しています。(十一月六日)

*

昭和十七年、新美南吉は「おちいさんのランプ」「牛をつないだ樁の木」「花のき村と盗人たち」など後期の代表作を始めとする多くの作品を書き上げました。それらは、第一童話集『おちいさんのランプ』(有光社)など、南吉の死の前後に出版された三冊の童話集

のための作品でした。

昭和十七年一月には、学生時代に発症した結核の進行に伴う死への不安や恐怖、文学がせめてもの救いであることなどを日記に記しています。しかし春先にはそうした不安や恐怖を乗り越え眼を見張る勢いで創作に打ち込むようになっていきました。南吉の心境が変化

しようか。

折しも昭和十六年十二月には太平洋戦争が始まり、南吉は教師としても童話作家としても影響を受けることとなりました。昭和十八年三月に二十九歳で亡くなった南吉が、死を覚悟しながら力を尽くした昭和十七年。今年はそれからちょうど八十年に当たります。

本展では南吉の昭和十七年にスポットを当て、三冊の童話集を中心にこの一年が南吉にとってどんな時間だったのかを探ります。第一童話集『おちいさんのランプ』の装丁と挿絵を手掛けた、日本を代表する画家、棟方志功の挿絵原画も展示しています。ぜひご覧ください。

【関連行事】

ミュージアム・トーク

8月28日(日)、

9月19日(祝)・25日(日)、

10月10日(祝)・22日(土)、

11月6日(日)

時間/13時30(45分程度)

*申込み不要

南吉童話、アートで表現

七月十四日(木)、市内の児童発達支援センター「つくし学園」の子どもたちが、南吉童話をテーマにした作品づくりに挑戦しました。



子どもたちの年齢によって挑戦する作品は異なりましたが、どのクラスでも行われたのが彼岸花の屏風つくりです。茎が描かれた紙に赤い手形を元氣よく押しつけていくと、そこには「ごんぎつね」に書かれた「びがん花が、赤い布のようにさきつづ」く景色ができあがりました(右下写真)。ほかに「手袋を買いに」を題材に、手袋の型紙を野菜スタンプやクレヨンで彩ったり、狐のお面を塗ったり、子どもたちは思い思いの形でアートを楽しんでいました。

今回制作された作品は、いずれも「みんなの南吉展」に出展されます。「みんなの南吉展」とは、障がいのある子どもたちが、南吉の世界をアートで表現することにより、環境や立場を越えて、みんながつながることを目指した作品展で

す。昨年に続き二回目を開催するべく、こうして作品づくりの場が設けられました。みんなの南吉展実行委員会の主催で、今年は九月二十二日(木)〜十月二日(日)に開催され、期間中は関連イベントも予定されています。会場はクラシティブと半田赤レンガ建物です。

今後も「木の祭」「花を埋める」など、ほかの南吉作品をモチーフにして作品づくりをしていくそうので、半田のまちなかに、子どもたちが手がけた南吉作品の世界が現れます。



南吉と東京をつないだ同人誌

童

『童』は、北原白秋門下の若手童謡詩人たちによって、昭和五年三月〜昭和十年五月まで刊行されました。南吉も昭和六年九月から同人となり、童謡やエッセーを掲載しています。南吉は同誌を通じて異聖歌と知り合い、のちに彼を頼って上京することとなりました。



先日そんな『チチノキ』について、記念館で未収録だった号九冊(左写真)を購入しました。これで南吉の作品が掲載された号は全て集めることができましたので、今後の企画展などに活かしていきます。

『チチノキ』自体は既に各所で研究され、同誌に掲載された南吉の作品も、以前から『校定新美南吉全集』(大日本図書)などで読むことが出来ました。そのため新発見はありませんが、作品に限らず、東京時代の南吉を知る資料としても活用できそうです。たとえば昭和十年五月に発行された最後の『チチノキ』では、南吉の住所が『チチノキ社内』となっていて、この号の奥付

を見ると、チチノキ社の住所は異の家になっているので、この時期にも、南吉は異家に寄宿していたのかもしれない。東京での南吉の足跡が垣間見えます。

なお、『チチノキ』の購入にあたっては、新美南吉顕彰基金への寄附金を使わせていただきました。今年度から広く寄附を募ったところ、既にたくさんの方からご支援いただき、こうして新資料を購入することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

基金への寄附は一定の条件で税控除が受けられるほか、ささやかですが特典もご用意しています。インターネットから、半田市へのふるさと納税として寄附することもできます。返礼品として南吉ファン向けのサービスもご用意していますので、詳しくは記念館ホームページ(下記QRコード)をご覧ください。



地域で守る三百万本の彼岸花

記念館の北を流れる矢勝川は「ごんぎつね」に「村の小川」として出てくる川で、秋には三百万本の彼岸花が咲き誇ります。一面に広がる童話の風景を見に、毎年たくさんの方が訪れますが、彼岸花を綺麗に咲かせるためには年間を通して手入れが必要。そのため地元「矢勝川の彼岸花を守る会」の方々が、毎日草刈りや植栽に動んでいます。しかし近頃では、会員の高齢化と減少が目立つようになってきました。そこで今年度から地域の有志を募って、一斉に矢勝川の草刈りを行うことになりました。

草刈りは年三回、四月、六月、十月に実施します。既に四月と六月については草を刈り終わりました。彼岸花の季節に限らず、矢勝川の堤防は普段から散歩道として利用されています。記念館を訪れた際には、「ごんぎつね」の舞台として、ぜひ歩いてみてください。



また、六月七日(火)には岩滑小学校の児童四・六年生三十八名が、六月二十四日(金)には岩滑北保育園の年少・年長園児三十七名が、彼岸花の球根を植えるのを手伝ってくれました(左写真)。南吉のふるさと・半田に咲く三百万本の彼岸花。その中に自分たちが植えたものもあるということを、大人になつてからも覚えていて欲しいと思います。まもなく秋の彼岸ごろ。地域の人々が見守り育てる彼岸花が、今年も咲きだそうとしています。



記念館からのお知らせ



工事に伴う臨時休館と生家駐車場の移動について

来年の新美南吉生誕110年に向けて、記念館の常設展示をリニューアルします。その工事に伴い、記念館は11月7日(月)～令和5年1月3日(火)まで臨時休館いたします。また南吉の生家につきましても外壁修復工事を行うため、10月24日(月)～令和5年1月3日(火)まで見学できなくなります。皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

また10月より、生家の駐車場が左図の通り移動する予定です。大通りからそのまま入っていただけるようになりますので、ぜひ生家の見学にご利用ください。

ごんの秋まつり

記念館北の矢勝川に300万本の彼岸花が咲くのに合わせて開催している「ごんの秋まつり」を、今年は9月20日(火)～10月4日(火)に行ないます。期間中の休館日はありません。

第34回新美南吉童話賞 作品募集中!!

今年も子どもから大人まで、創作童話を募集しています。ふるってご応募ください。

募集期間 9月10日(土)まで
賞金 最優秀賞50万円ほか

※詳細は記念館HP(右QRコード)へ



日誌抄

四月(卯月)

▼9日 文学講座「新美南吉は何故故郷を舞台に児童文学を書いたのか?」。53人参加。於アイプラザ半田
▼10日 「榊原澄香ペーパーアート展」終了。会期中観覧者数5451人▼16日 企画展「一枚の葉書」は「蟹工船」のオマージュか?が始まる(7月10日)。会期中観覧者数7176人▼同日 ガイドボランティア例会▼17日 第180回新美南吉読書会。14人参加

五月(皐月)

▼1日 中日新聞愛知総合版で企画展「一枚の葉書」は「蟹工船」のオマージュか?が紹介される▼4日 「正八ちゃんの端午の節句」。期間中入館者数767人▼15日 読売新聞北海道総合版で企画展「一枚の葉書」は「蟹工船」のオマージュか?が紹介される▼22日 第181回新美南吉読書会。13人参加▼28日 「童話創作講座」第1回。20人参加。於アイプラザ半田▼31日 NHK名

古屋放送局の「まるっと!」で、今読んで欲しい南吉作品などについて、記念館館長へのインタビューが放送される

六月(水無月)

▼1日 第34回新美南吉童話賞作品募集始まる(9月10日)▼3日 新美南吉顕彰会理事会。於市役所大会議室▼17日 東海テレビ「スイッチ!」で、南吉が通った書店として同盟書林が紹介される▼24・25日 「南吉さんの蚤まつり」。期間中入館者数860人▼26日 第182回新美南吉読書会。16人参加

七月(文月)

▼2日 「童話創作講座」第二回。17人参加。於アイプラザ半田▼同日 日本経済新聞の「文学周遊」で南吉の童話「嘘」が紹介される▼16日 特別展「南吉の昭和17年」私は死ぬ けれど私の仕事は死なない」が始まる(11月6日)▼同日 ガイドボランティア例会▼24日 第183回新美南吉読書会。16人参加▼30・31日 「新美南吉生誕祭」。期間中入館者数810人